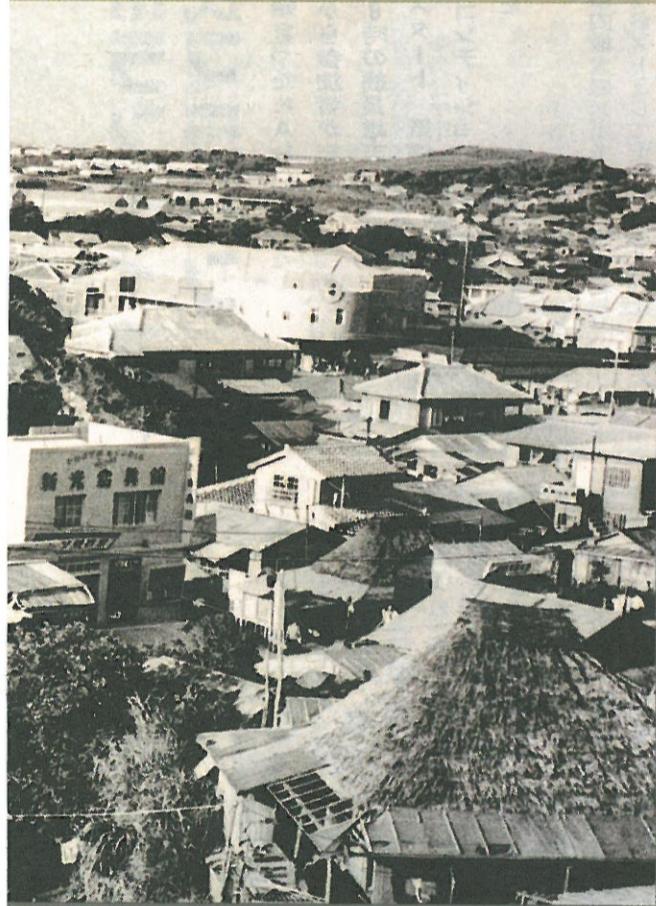


世纪前の那覇のまち

「20世紀前半は、そして後半は」と思い返してみると、沖縄は戦争、アメリカ統治化時代、そして、日本復帰とすさまじい激動の歴史のうずの中で、木の葉のように揉まれてきました。

しかし、那覇市民は統治国アメリカや本土の諸文化をも吸収しながら、たくましく、独自の文化を育み、近代的な街を築いてきました。

今世紀は私たち那覇市民にとって、世界にとつてどういう100年になつくのでしょうか。また、20世紀とは、どういう100年だったのでしょうか。



たり。

魚の計り売り 牧志 1953年
公設市場。買手は軍票B円を手にもつ。漫湖の風景 壱川 1953年
楚辺から漫湖を望む。左の島はガーナムイ、右は奥武山。米屋 牧志 1953年
公設市場の米屋の前を通る女性。青物売り 牧志 1953年
公設市場前での計り売りの風景。市場の賑わい 牧志
1952年 公設市場